

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：大学院社会文化科学研究科

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
1)改組計画を策定するなかで博士課程前期課程・後期課程の定員・専攻について抜本的な見直しをする。 2)O-NECUSによる学生交流を中心とした国際協力プログラムの推進 3)国際化に向けての学生の交流機会の拡大 4)地域と連携しながら地域に貢献する人材育成のための教育システムの充実 5)就職支援体制の整備	1)博士前期課程を中心とした改組計画を策定し、3月に文部科学省と事前相談を行った。改組計画では、博士課程前期課程の専攻を組み替えるとともに、教員組織としての専攻と教育課程を分離し、学生定員については、博士前期課程では100名から80名に、博士後期課程では12名から15名へ改訂するとしている。定員の改訂計画は、平成24年度までの5年間の平均入学者数についてみた定員充足状況を1つの根拠としている。 すなわち、この5年間の平均入学者数は、博士前期課程約80人(定員100人)、後期課程約15人(定員12人)であり、平均入学者数についてみた定員充足率が、それぞれ80%、125%であった。 2)O-NECUSプログラムに基づき、博士前期課程に双方向学位制度4名受入、特別聴講学生9名を受け入れるとともに、キャンパスアジア事務局と共同で短期中国語研修に学生を派遣した。 3)国際化に向けての学生の交流機会の拡大のため、輔仁大学及び華東政法大学との協定締結を進めており、高雄大学法学院とも双方向学位制度を実施する予定である。平成24年度は、博士前期課程に特別聴講学生9名、博士後期課程に特別聴講学生4名を受け入れた。 4)地域公共政策コースにおいて、地方議会議員、公務員のリカレント教育を中心に地域に貢献する人材育成に努めている。平成24年度は5名を受け入れた。 5)就職支援体制の整備のため、キャリア支援委員会を新設した。7月にキャリア開発センターの協力による就職ガイダンスを実施した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
定員充足率、交流先大学、留年・退学・休学者数、就職状況	
②研究領域	
②-1 目標	
1)既存の研究プロジェクトの成果の発信と新たなプロジェクトの立ち上げ 2)国際的な学術交流の推進 3)研究成果公表方法の改善	1)研究プロジェクトは構築できなかった。 科学研究費補助金の採択については、新規採択は10件で、継続分は60件である。目標値は85件であるから、目標値から25件不足している。なお、別に、科学研究費補助金にかかる共同研究、委託研究はそれぞれ1件ある。 2)グアム大学のパネルに教員を派遣した(経済系・藤井准教授)。 協定校を訪問して学術交流の打ち合わせをした(グアム大学、韓国、台湾、ベトナム)。 海外招聘講演会「孔子思想の人類への貢献」(山东大学政治学・公共管理学院長)を実施した。 「東アジア飛翔人材を考える」国際シンポジウム(東北師範大学、グアム大学から招聘)を開催した。 3)東アジアセンターによる中国語と韓国語の研究案内を刊行した。
科学研究費補助金の申請率と獲得率 シンポジウム等の開催 研究プロジェクトの実施	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	
1)地域創生ネットワークアゴラを中心に、地域の課題に取り組む 2)地域公共政策コースを中心に、地方議会・職員のリカレント教育に努める 3)公開講座、公開シンポジウムなどを通じた研究成果の一般への発信	1)「地域と医療」をテーマに、講演会や勉強会を開催した。その他にも、岡山市や倉敷市と連携して町おこしの研究を行い、倉敷市とは勉強会も開催した。さらに美作市の要請で事業仕分けにも協力した。 2)県議会の要請で、「岡山県議会地域公共政策セミナー」を企画し講師を派遣している。今年度は8回の講演を行った。 3)ネットワークアゴラ有志教員を中心に、2012年年度社会文化科学研究科公開講座「地方自治・地域分権の現在、そして課題」を開催した。計4回、毎回60名近くの受講者が参加した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
公開講座の実施 地域創生ネットワーク・アゴラのフォーラム等の開催	
【総括記述欄】	
目標の達成状況は、全体としては良好であると考えている。これまでの成果の上に、更に展開を重ねていきたい。 個別的には、まず、研究科の改組計画については、平成25年度に実施される文部科学省によるミッションの再定義との関連で、十分な検討が必要となろう。国際交流に関しては、中国との交流は軌道に乗っているが、他の国との交流実績をより積み重ねていくことがさらなる課題である。また、研究プロジェクトの立ち上げや科学研究費補助金の獲得といった、研究科としての研究活動の低迷を克服することが課題である。	